

「ゴーストピル」と呼ばれるものを見たことがありますか？直訳すると「錠剤の幽霊」。皆さんが服用されているお薬の中に、そのままの大きさ、形でふん便中に出てくる薬が一部あります。これを初めて見た方は、せっかく飲んだお薬が吸収されず、効いていないのではないかとびっくりされると思います。

昔のお薬は、粉薬・煮出した液体・丸薬など、有効成分をそのままの状態飲んでいました。効果の短いお薬は、1日に何回も飲む必要があり、服用回数が多いことで飲み忘れてしまう可能性も高くなっていました。現在、製剤技術が発達したことにより、ゆっくり溶けて体に吸収されるように加工することで、利便性を高めたお薬が増

ちよつと得する

クソワの知識 90

「抜け殻」排便の場合も

えてきました。

錠剤によってそれぞれ特長はありますが、代表的な例として、目にみえない位の小さな穴がたくさん開いた物体（軽石のようなもの）に有効成分をしみこませ、体内でゆっくりと放出させることで、長時間効果を発揮する薬剤があります。このようなお薬を徐放剤といい、薬の有効成分は体に吸収され、抜け殻だけが排便されてくる場合があります。これがゴーストピルの正体です。

抗てんかん薬、麻薬鎮痛薬、造血薬（鉄剤）、抗アレルギー薬、高血圧薬などの薬剤のうち、一部のお薬でゴーストピルが排

出されることがあります。

しかし、同一成分の徐放剤、例えば先発薬とジェネリック薬でも、製剤方法の違いにより、ゴーストピルを排出するものではないものもあります。ジェネリック薬に変更したらゴーストピルが出てきたという場合もありますが、個々の薬剤の特性ですので、ご安心ください。

もし、ゴーストピルらしきものを発見し、不安を感じるようであれば、ぜひ薬剤師にご相談ください。

（牧野和也・県病院薬剤師会理事）

<次回は10月27日に掲載>